

富熊コミュニティセンター市長懇談会

○日 時：令和元年 7 月 28 日（日） 午後 2 時 00 分～3 時 00 分

○場 所：富熊コミュニティセンター

○参加者：40 名

○担当者：市長

地域担当職員 長法（農業委員会）・濱本（都市計画課）・河田（福祉課）・
鳥井（健康課）

1. 会長あいさつ

例年、自治会長会と防災研修会をこの時期に行っていたが、今年は、市長懇談会に併せて行う。貴重な機会なので有意義に行いたい。

2. 市長あいさつ

毎年、全てのコミュニティで市長懇談会を開催していただいている。普段から地域の問題について聞いているが、直接みなさんから生の声を聞く。そして、それを今後の市政の運営に生かしていくうえで有意義な機会となっている。できることについては、直ちにやるが、少し時間がかかることもある。また検討を要することもある。その点をお互いに丸亀のために一緒に考えていきたい。

3. 丸亀城石垣修復に向けて（市長）

昨年 7 月 7 日の西日本豪雨で非常に雨が降った。丸亀城の石垣も被害を受け、その後、10 月 8 日、9 日の台風で、再び同じ場所で大規模な崩落が起こった。今、市を挙げて復旧に取り組んでいる。丁度 1 年後の 7 月 7 日に市民説明会を開いた。その時の詳しい資料や、質疑応答はホームページで公開されているので、またご覧いただきたい。丸亀城の地盤は、北側は安山岩の固い岩盤がある。天守の下は岩である。南側の崩落した方向は岩盤がなく、盛土でできている。水に弱い真砂土を盛って、その周りに石垣を貼っている。雨に弱い特徴があり、江戸時代、築城して 5 年後に壊れて修復したという、山崎時代の記録が残っている。記録だけだったが、今回崩れた中から、崩れた当時の石垣が発掘された。昭和 52 年、53 年にも帯曲輪石垣は積み直しをしている。石垣は国指定の重要文化財になっている。その当時も今も文化庁の指導で、築城した当時のやり方で元に戻す。今回も、痛みが激しいということで修繕の準備をしていたところ、先に崩れてしまった。全体の事業費は概算であるが、35 億程度かかり、国の補助金が 7 割ある。応急工事を昨年の 11 月から今年の 6 月まで行った。今後、本

格的な復旧工事を行い、2023年度、令和5年度までに完了する予定である。本格復旧工事は、鹿島建設が行うことになり、現在、工法や設計を行っている。崩壊のメカニズムも修復に併せて解明する。解明して、崩れないように対策を立てることにしている。今回の崩落は雨が原因で、水が石垣の内側に浸透して溜まっていく。そして土砂を少しずつ押していく中で、下側の帯曲輪は外側に向いて倒れた。下側がなくなったので上の石垣は滑り落ちた。土砂崩れによくある円弧滑りを起こし、地盤ごと落ちた。崩落したその日の10月9日に対策本部を設置し、全庁体制で当たることとした。お蔭さまで、現在まで3億円を超えるご寄付を皆様からお寄せいただいた。丸亀城がどれだけ皆さんにとって大切な城であるか分かる数字で、この募金を使わせていただき、まず修復をする。そして崩落した場所以外の手入や調査、排水管理の工事に使わせていただく予定である。みなさんのお力で着々と修復しているので、今後ともご支援いただきたい。

4. 懸案事項

(1) 西沖日出の交差点の押しボタン信号について（会長）

西沖日出の山下電設株の交差点では、高齢者や自転車の子供が東西の横断をする場合、とても危険を感じる。押しボタン信号があれば、東西の横断が安全に出来る。

（市長）

押しボタン信号を設置する場合は、通常、市の環境安全課で場所や現状を確認した上で、市と丸亀警察署で設置基準に基づいて協議をする。信号機や一旦停止等の道路交通の規制については、警察や公安委員会の所管になり、市で勝手にはできない。基準を満たしていれば、地元から要望書を提出してもらい、現場確認を行った上で判断される。今回の場所についても、その手続きが必要となるので自治会やコミュニティで申請を行っていただきたい。具体的には環境安全課にご相談いただきたい。この箇所でこういう要望があるという事は伝えておく。

（男性）

この案件は、再三こういう所で話しているが、話を聞くとダメな理由ばかりあって、こうしたらできるという話が出てこない。同じような場所を見ても、押しボタン信号が見受けられる。その気になればできる、何が足りないか知りたい。

（市長）

最終的には警察の判断になる。皆さんでも警察に要望する必要がある。できないということは、基準に合致していないということなので、その基準に合致しないけど、どうしても必要であるという理由を要望する必要がある。また、道路に色を塗る等、安全対策の点

から別の方法も検討いただきたい。

(男性)

あそこに交差点があるということをつからずに走る人が多い。それが大きな問題である。

(市長)

交差点のカラー舗装等安全になる方法を考えることも必要である。

(2) 防犯カメラの設置について (会長)

小学校やこども園等の学校周辺に、防犯カメラの設置をして下さい。近年、異常犯罪や歩行中での突発的な交通事故等、子供たちを取り巻く環境は悪化している。都会だけのことではない。少しでも不安要素を払拭して頂いて、安心して生活していきたい。

(富熊小学校長 女性)

富熊小学校は門扉が5か所ある。小学校1、2年生の教室が南東の1、2階にあり、例えば、そこへ不審者が悪意を持って入ってこようとした時に、職員室からちょうど死角になって、直に教室に入ろうと思えば入れてしまう校舎の造になっている。西門、東門の所にあればありがたい。検討していただきたい。

(市長)

学校の管理上必要である場合は付けたケースもある。学校教育課と相談していただき、どんな風なのがよいか検討していきたい。付けたからといって、モニターを誰かが見るという状況にはなりにくいと思う。その辺りをどうするのか考えながら検討する必要がある。通学路の学校施設でない所も要望が出る。香川県警の防犯カメラをコミュニティで1か所くらい付けていたが、それを県警ではしないので市でお願いするという話があった。また、自治会が付けるのであれば県で補助する制度は残っているので、これを利用することも考えていただきたい。市で付けて欲しいということであれば、財政と安全対策が図れることのバランス、他の地域や学校のことも勘案しながら考えなければならない。今のところ市として一般の道路や学校外のところに、市が付けるという考えはない。地域の見守りの皆さんで防犯対策をしたい。

(3) コミュニティバスについて (会長)

高齢者社会とバス路線の希薄化の為、コミュニティバスを思いきって70歳以上と学生を無料にしてはどうか。高齢者の運転事故防止と学生の交通安全が狙い。すべて無料にすることも考えてはどうか。

(市長)

現在コミュニティバスは、運転免許証を返納していただいた高齢者は運賃半額、学生は

通学定期を割り引くということで市の独自の事業としてやっている。無償ということもこれから高齢者が増える中で、免許返納を促すという意味で検討もしたが、今のところはそれ以外の方法となっている。運賃収入がその分減るので、市が財政負担することになる。それだけを見ればマイナスであるが、高齢者がバスに乗り、外出して元気になり医療費や介護費がいらなくなれば税金でない形で返ってくる。今後、政策的にそういうことを判断する時期が来ると思う。今はまだそれだけの余裕がない。今年度と来年度で公共交通網形成計画を作る。公共交通を利用して、みんなが移動できる方法を作るということで地域のみなさんの意見を聞いている。将来に亘って、こういう形だったら公共交通で移動できるということを、この2年間でもう一度見直すという時期になっている。コミュニティバスだけが移動手段ではだめなので、コミュニティにお願いして自家用のボランティア輸送をやろうとしている。車と保険を市が用意する。運転手は地元で確保していただくしくみで、実験を始めている。無料にはならなくても、移動をどうするかということは今後も考えていきたい。

(男性)

今のコミュニティバスはほとんど空で走っている。コミュニティバスに乗ってもどこへ行くのか分からないという話を聞く。このような状態をなくすためにも、乗りやすくして、コミュニティバスは便利だということを理解してもらうことも必要である。

(市長)

おっしゃるとおりだと思う。分かりやすい表示を公共交通網形成計画でも話し合ってもらうように提言する。

(4) 琴電の岡田駅の自転車置き場について (会長)

琴電岡田駅の自転車置き場に屋根がない為にカップも濡れるし、着用までに濡れて困る。栗熊駅のように、屋根を付けて欲しい。

(市長)

琴電駅の自転車置き場は市ではなく、琴電で管理している。直接琴電へ聞いていただきたい。

(5) 富士見坂団地内道路について (会長)

富士見坂団地の中央道路で道路の区画線が消えかけていて、車での走行が危ない時がある。また、歩道に草が多くあるので小学校の通学路の妨げになっているように思う。

(市長)

線は現地調査を行い、引き直しをする。除草も27日までに行うということで、既に終わっているのではないか。

(富士見坂団地自治会 男性)

クリーン作戦の時はそこも自治会でしている。年 4 回やっている。全部完璧にはやれないので、残りを業者がしてくれている。

(6) 災害時の避難所について (会長)

災害時の避難所であるコミュニティセンター、ゆうとぴあ、小学校、保育所は、本村地区から高齢者が徒歩で向かうには遠いように思う。近くに公共施設を建てるのが無理であれば、一般企業（例えば葬儀場）と連携して、災害時には避難所として借りられるように配慮してもらえないか。

(男性)

東沖と西沖には避難所がない。

(会長)

富熊地区の避難所は決まっている。地区ごとの避難所はない。

(男性)

地区ごとのバランスは考えないのか。

(市長)

国や県の公共施設も全部避難所に指定しているわけではない。し過ぎても避難所を開設する職員の手が足りない。できる限り地区で集約して欲しい。大規模な災害のときに葬儀場がその対策のために有効であるなら、市と民間の施設管理者で協定を結ぶということはある。港の方では高潮避難ビルでマンションを使ったり、富士見町はオークラホテルへ逃げるといふ協定を結んでいる。これ以外に方法がないとか、協力してくれる企業がある場合は、市と協定を結んで避難所になっている。コミュニティとも相談したい。

(男性)

古い話を聞くと、飯山町との境の西大東川は氾濫したことがあるが、富熊では氾濫していないという話を聞く。沖というのは、海岸だったところで、1メートル掘ったら砂地である。低い土地だと思うが、そういう所の人逃げるところがないという話が昔からあるようで、参考までにお知らせする。

(市長)

今年度中に新しいハザードマップを配布する予定である。冊子にしており、地域ごと、災害種別ごとに分かりやすくしている。沖は水害が想定されるので、具体的な作業を自治会やコミュニティ、防災でしていただければありがたい。避難所も台風の時に開くが、実際避難する人は少ない。本当に有効な必要な所を確実に開く、そして早

めに避難していただくと災害の被害は防げると思うので、ご協力をお願いします。

(男性)

懸案事項2の防犯カメラの設置について、今のところ設置する予定はないとのことだが、ブロックが退いてフェンスになり交通事故に遭わない走りやすい道路になった。その為に学校の中が外から見通せるようになった。逆に防犯上よくなかったなので、検討いただきたい。

(市長)

学校の施設や学校をとということであれば、教育委員会で相談して必要な場所には付ける。一般の道路に付けて欲しいと言われるが、それは未だである。学校の防犯については検討していく。

(男性)

せめて、南東の校舎の横だけでもお願いしたい。

(本村自治会 女性)

永年子育てサークルでボランティア活動をしてきた。現状と活動について理解と推進をお願いしたい。この先の若い人たちがこの活動を楽しく続けていけるように、途絶えることがないようにと思い意見を述べる。この活動は綾歌町時代から始まり、合併後愛育班に入った形となっている。この活動は地域に根付き、長く子育て支援をしてきた組織である。毎月第2、第4木曜日に富熊、栗熊、岡田の合同で活動している。何年か前に綾歌地域に何の知らせもなくコムコム広場ができた。多額の予算がある広場と会費で何とかやりくりしている子育て活動では、あまりに違いがある。地域の特徴を生かして繋がりを大切に、子育てをよくしようと活動している私たちを丸亀市の子育て支援で大切に考えていただきたい。そして、本当にその地域に必要な子育て支援とは何か検討いただき、その活動の維持、推進に力を入れていただきたい。

(市長)

綾歌地域の大きな財産が母子愛育班である。コムコムができたことで、片方は国の制度で補助金を出す、もう一方はボランティアで補助がなく地域でされていて、その差が際立っているということだと思う。今後進めていく中で、せっかくやってこられた母子愛育班の皆さんが元気に活動できるような方法を考えていかなければならない。

(男性)

団体で、香川県に3つある福祉学園に毎年クリスマスにプレゼントをしている。昔は入所する人は、経済的なことから子供を預ける人が多かった。最近では、一般の家庭にありながら子育てを放置している子供が入ってきていると聞いた。親子の関係をき

ちんと結べるような環境づくりが必要。子供を産んだら預けて仕事という風潮を国や行政が助長しているのではないか。その方向を見直す必要があるのではないか。そういう意味で、今のボランティアの活動、近くの人顔を見ながら子どもが育つということは大変重要なことだと感じたので付け加えさせていただく。

(市長)

家庭が核家族化で、育児で行き詰ったときに、近くに自分と同じ子育て中のお母さんがいて相談ができると救われるケースがたくさんあると思う。家庭を孤立させない方向で努力していきたい。

(男性)

昨年も同じことを言ったが、車の自動運転についてである。将来的には、田舎の移動手段は自動運転だと思う。全国の自治体と共同して国に要望していただきたい。

(市長)

自動運転もインフラがないと走らないので、国策としてやるように要望する。